

先生はファシリテーター、主役は子どもたち

17

23 DEC. 2025

授業開始

授業の始まりに、先生は子どもたちの様子から目的がすでに伝わっていると感じ、すぐに活動を始めました。

ファシリテーターに徹する先生

先生は子どもたちの考えを認めながら、次の目標や探究の方向を示す声かけを行っていました。

価格高騰を話すグループには「お米」など具体例を挙げて情報を具体化させ（情報の具体性を高める）、インターネット情報をそのまま使う子どもには「自分の言葉でまとめる」よう促しました（調べた内容を自分の言葉でまとめ直す）。

「寿司ペロペロ事件」だけに注目していた子には、テーマを広げてクラスメイトに意見を聞くよう勧め（課題の焦点を広げる）、文章が読みにくいグループには箇条書きなどの工夫を提案しました（発表形式を改善する）。

また、気候変動を調べる子には気づきを認めた上で、具体的な状況を想定して農作物への影響を考えるよう促し、次の探究につなげていました（既存の知識から次の考察を引き出す）。



グループ活動で積極的に取り組む子どもたち

子どもたちは互いの意見を尊重しながら活発に対話し、協力して本質的な疑問を追究していました。参観した先生からは、「言いにくいことも言い合い、それを素直に受け止める関係ができていく」との感想が寄せられました。

輸入や食の安全を調べるグループでは、「輸送日数」や「鮮度の保ち方」などの疑問を出し合い、スクールタクトで資料を共同制作しながら、互いのテーマの抜けや偏りを確認し合っています。調査で得た新しい事実に驚きを共有し、協力して理解を深めていました。

次時へ繋げていくこと

参観した先生からは、「集めた情報の中から自分が最も重要だと思う問題を明確にするとよい」との指摘がありました。次時に向けて、子どもたちは情報収集にとどまらず、「なぜ」「どういうこと」と問い続けて社会の本質を考えることの大切さが示唆されました。

授業の詳細はTeams「InaWaku2025授業づくり」参照

スクールタクトでリフレクション

【自分の学びへの気づき】
子どもたちは、ネット調べにとどまらず自分で考えを深められたことを価値ある学びとして捉えています。また、「解決策を見つけるのが大変だった」と課題の難しさを振り返り、発表資料づくりでは写真を使うなど自分なりの工夫を認識しています。

【他者の学びへの気づき】
グループ活動では「みんなが書きやすいように工夫してくれた」「説明が具体でわかりやすかった」と、仲間の貢献やわかりやすい表現を評価しています。

センターで推進する指導案のカタチ

単元ベースにすることで、単元全体の目的を明確にし、見通しをもって学習を進められるようになります。子どもたちは「目的のために何をすべきか」を意識して活動できます。指導案作成では、学習指導要領を踏まえて、子どもたちがより楽しく学べる方法を考えることを重視しています。

指導案「テンプレート2.0」の様式はこちらから →



富県小学校 有賀 祥子 先生の授業と研究会の様子を推進センターでまとめさせていただきました

伊那市学校教育情報化ビジョン2024

探究的な学び

先進的な学び

個別最適な学び

協働的な学び

自立的な学び

子どもと共に未来を創る教員